

八鹿病院

YOKA HOSPITAL

NEWS



地域に暮らす人々と共に心あたたかな医療をすすめたい

YOKA HOSPITAL 医療

地域包括ケア病棟

—在宅生活を見据えたさまざまな支援をおこなう—

- > 新年のご挨拶
- > 栄養管理科「体を支える食事・心を支える食事」
- > 八鹿病院トピックス 集団災害訓練を実施しました 他
- > 教えて！健康コラム「ピロリ菌のおはなし」
- > 看護部だより「地域の中での看護活動で患者さんやご家族を知る」
- > インフォメーション フットケア外来をはじめました 他

2019



公立八鹿病院基本理念

私たちは、地域中核病院として、医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くします。



地域包括ケア病棟 集団リハビリのようす

昼食のようす。食事介助や飲み込みが困難な方を見守りながら、楽しい時間となるよう看護師をはじめスタッフで積極的に患者さんと関わっています。

YOKA HOSPITAL 医療

地域包括ケア病棟

在宅生活を見据えさまざまな支援をおこなう

当院では、平成27年1月より地域包括ケア病棟50床を開設し、皆様にご利用いただいています。

**安心して帰るために
充実した退院支援を**

地域包括ケア病棟は、入院治療後に病状が安定した患者さんに対して、退院支援を効果的かつ密度高くおこない、在宅や介護施設への復帰を支援する病棟です。たとえ状態が安定しても自宅や施設等での療養生活に不安のある方、また入院生活を継続し治療やリハビリを続けることで回復の見込まれる患者さんに対して、より安心して退院していただくように支援しています。

入院日数は保険診療上、最大60日までを原則とし、医師・看護師・リハビリ・医療ソーシャルワーカーなど多くの職種が患者さんやご家族と協力して在宅復帰に向け退院調整をおこなっています。

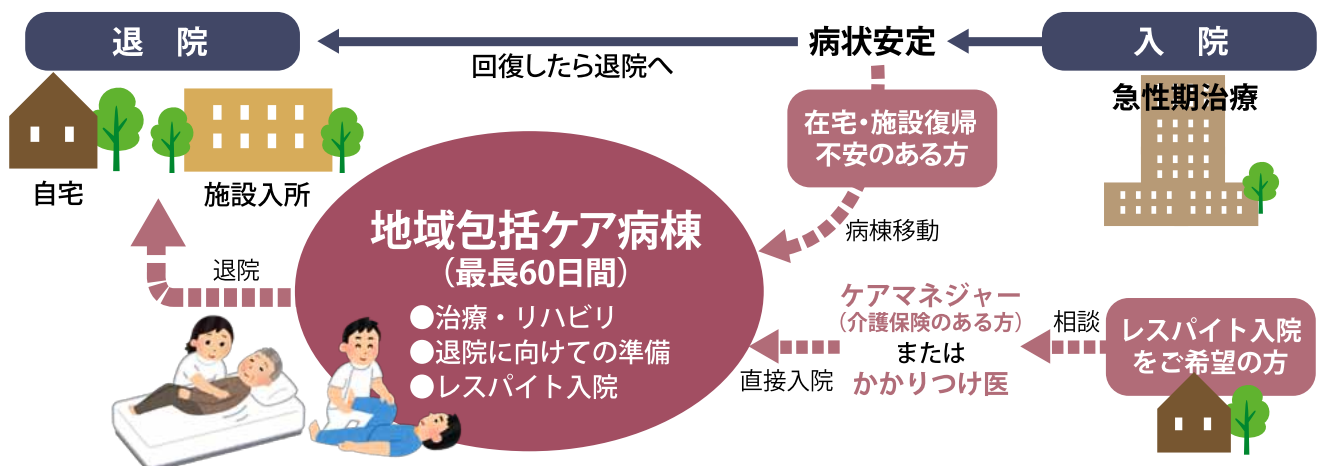
地域包括ケア病棟の必要性

入院患者さんの在院日数

の短縮化により、治療が終われば早期退院の方向となっています。その中で、『自宅に退院するには少し不安』、『もう少しリハビリをして自信を持って退院したい』、『住宅改修が必要』、『施設入所のための準備が必要』という場合に、不安を軽減し安心して退院していただくためには、地域包括ケア病棟が必要となります。

レスパイト入院も可能

在宅で療養されている患者さんのレスパイト入院を受けると、退院後の在宅生活がより良い状態でも継続できるよう支援しています。レスパイト入院とは、在宅で療養しておられる方が発熱など体調不良を起こした場合や、介護者の方が介護疲労を起こされた場合に、一時的に入院を受け入れることができる仕組みです。レスパイト入院をご希望の場合は、介護保険のある方は担当のケアマネジャー、かかりつけ医がある方は、かかりつけ医にお気軽にご相談ください。





笑顔で退院していただけるよう
さまざまなサポートをしています！

地域包括ケア病棟の特徴・とりくみ

1 在宅生活を見据えた リハビリテーション

生活に基づいた積極的な離床をおこない、スムーズな在宅復帰につなげています。在宅生活の不安を減らすため、必要な方には理学療法士がご自宅へ伺う退院前訪問をおこないます。多職種と連携しながら個々にあった動きや住宅改修のポイントをお伝えします。また、患者さんの状況に応じたリハビリにも取り組んでおり、疲れやすい方には軽い運動を午前・午後に分けるなど負荷を抑えるリハビリもおこないます。複数の患者さんと一緒に運動をする機会もあります。



集団リハビリの様子

2 患者さん・家族のための 充実した在宅復帰支援

在宅生活への復帰に向けて退院支援をおこなっています。退院後の在宅生活を見据えて生活していく中で、困りごとについてカンファレンスで一緒に考え、よりよい状況で退院していただけるよう多職種と連携を図りながら支援をしています。その中でもわかりやすい介護指導を心がけ、介護者の負担軽減に努めています。

カンファレンスでは、院内スタッフの他にも訪問看護師やケアマネジャーなど患者さんの関わる地域のスタッフも一緒に考えていきます。



3 患者さんに寄り添いその人らしい生活を目指す

近年、入院患者さんの中でも認知症症状のある方が増えつつあります。当病棟では、治療が終わり退院に向けて在宅や施設で、その人らしい生活を送っていただけるように、その方のこれまでの生活史や趣味などを知り、余暇の時間（ちぎり絵・計算ドリル・習字等）を持ったり、音楽療法士による歌の会などをおこなっています。認知症ケア専門士が中心となり、スタッフ同士で相談しながらチームとして患者さんに関わっています。また、認知症の方を介護する家族の負担は大きいものがあります。入院を機に認知症症状が悪化するケースも多いため、スタッフと家族で情報共有をおこない負担の軽減を意識した退院支援もおこなっています。



音楽療法。みんなで一緒に歌います



参加者で楽しくゲーム！



時には習字もおこないます

わが国ではどんどん高齢化が進み、いろいろな分野で高齢者に適したサービスが求められています。医療においても患者さんの高齢化に伴い、主たる病気を治療できても立てない、歩けないなどの問題が残り、すぐに退院できないことがしばしば起きます。このような場合は、集中的にリハビリをおこなうことができるだけ早く入院前の状態に戻すことが求められます。これが地域包括ケア病棟の主な役割です。高齢者であればあるほど元の状態に戻るのに時間がかかります。この病棟では2か月を目途に、専門的なりハビリを行い、可能な限り、もとの状態に戻します。また国の方針でもありますが、病院での治療と自宅での療養を分けて考えなければならぬ時代になっていきます。当院でも訪問看護や訪問リハビリなどのサービスを提供して、安心して自宅で療養いただけるように考えておりますが、ご家族や患者さんのご都合でしばらくこの病棟でお預かりすることもこの病棟の大事な役割です。

早期に患者さんを
入院前の状態へ戻したい



地域包括ケア病棟
谷風 三郎 医師

新年のご挨拶

公立八鹿病院組合 管理者
富 勝治



皆様、あけましておめでとう御座います。新年に当り御慶びの御挨拶を申し上げます。医療・介護・福祉を取り巻く状況変化は目まぐるしく、それを担う組織にも多くの変化が求められております。そんな時代にこそ、私達公立八鹿病院組合は「ブレない」存在理念を持たねばなりません。私達の目的は、「当組合構成市（養父市）・町（香美町）を含めた但馬を健康長寿地域にする事」であります。行政諸施策の中に在って、「健康生活の維持・増進を担当する組織」管理者としての抱負を述べさせていただきます。

一、理念

医療・介護・福祉を通して、皆様の健康維持のみならず生活の質的向上に寄与しなければなりません。また、経営改善に努め構成市・町への経済的負担の軽減を図り、企業体としての自立を目指します。

二、ビジョン

医療機関としての質的向上

に努力し、住民の皆様と職員間の信頼関係形成に努めます。

三、組織と職員の行動指針

当地域に在っては最大の公的事業機関である八鹿病院組合組織の職員は、その責務の重さを自覚すべきであります。勤務態度や仕事に取り組む姿勢は地域の模範となるべきであり、日々の研鑽・接遇・職員間連携・快適な職場環境づくりは組合組織発展の基本事項であります。八鹿病院組合では年に4回、組合議会が開催されており、養父市議と香美町議12名及び八鹿病院組合職員16名からなる会議であります。皆様の声が議員各位を経て審議される事も可能です。当組合が但馬の健康長寿街づくりに貢献し、更には若い皆様が安心して将来を託せる地域になる事を願い、職員一同決意を新たに致しております。本年も宜しくお願い申し上げます。

公立八鹿病院 院長
後藤 葉一



明けましておめでとうございます。皆様お揃いで良い新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の公立八鹿病院を振り返りますと、前年に引き続き常勤医師確保と病院経営改善という課題を抱えつつ、地域の皆様の命と健康を守るために奮闘してまいりました。具体的には、県指定の「地域医療支援病院」として、救急医療からリハビリテーション、訪問看護、さらに介護老人保健施設（老健）に至るまで、まさに急性期から慢性期までの地域医療を多面的に実践してまいりました。院内では、地域医療課を「地域医療連携室」として「医療安全推進室・「感染対策室」と並び院長直属の組織に格上げし、地域の医療機関や医療従事者との連携強化を図るとともに、患者さんの医療・福祉相談窓口を新設しました。また11月から足の傷や痛み等のケアをおこなうフットケア外来を開設しました。一方で、病床稼働率が低下した9病棟を閉鎖し、

看護職員の再配置により病院経営の効率化・充実化を図りました。

医師確保につきましては、兵庫医科大学から消化器内科医師2名が派遣され、また産婦人科・老健・地域包括ケア病棟に常勤医師が着任し、内視鏡検査をはじめ診療内容が大幅に充実しました。さらに本年4月には、当病院組合の修学支援制度を利用した若手医師2名が内科医師として勤務し、初期研修医が3名から4名へと増加する予定です。これらの成果は、地元自治体・医師会・地域住民の皆様のかいご支援のたまものであり、ここに深く感謝申し上げます。今年八鹿病院は、地域の皆様に質の高い医療を提供し、安心して利用していただけるようこれまで以上に奮闘するとともに、職員全員が働き甲斐を感じることが出来る病院をめざしたいと考えています。新しい年の初めにあたり、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

体を支える食事 「治療食」と「食形態の工夫」



治療食

主治医の指示のもと、病状に応じた治療を助ける食事です。

- 胃に優しい食事
- 塩分を抑えた食事
- 貧血を改善する食事
- 血糖をコントロールする食事 など

約 14 種類の治療食に対応しています。

糖尿病・腎臓病など疾患に対する食事療法としての治療食はもちろんの事、病状等により食事が食べづらくなった方、それに伴い栄養の改善が必要になっている方への食事、食事が噛みづらくなった方や飲み込みづらくなった方へ食形態の調理を工夫した食事など、患者さん個々に合わせた食事を提供しています。

様々な食形態の工夫

- **普通食**
一般の方へ
- **やわらか食**
飲み込み・噛む力が少し弱い方へ
嚥下のリハビリにも利用している
- **ソフト食（1号・2号）**
飲み込みが困難・噛む力が弱い方など
- **ミキサー食**
噛むことができなくなった方へ



やわらか食
普通食のようだが調理を工夫し食べると適度にやわらかい。



ソフト食（1号）
食材の形に成形し、見た目もきれいでやわらかい。

心を支える食事 「食べることを楽しめる病院食の提供」

季節感を味わう行事食



お正月



ソフト食



お花見



七夕

産科病棟 産後お祝い膳



緩和ケア病棟 リクエスト料理



※写真は一例です

「食事によって栄養を摂る」ことはもちろんのこと、「食べる」ことそのものを楽しんでいただくためのさまざまな工夫をおこなっています。お正月や七夕・敬老の日など季節毎の行事にあわせた行事食、産科病棟では出産後のお祝い膳、緩和ケア病棟ではリクエスト食（患者さんの嗜好や体調に沿った食事メニュー）の提供などもおこなっています。

いずれも、入院中であっても食の楽しみや意欲を持っていただくために、栄養面で身体を支える食事だけでなく、患者さんの心を支える食事も提供したいという思いで取り組んでいます。患者さんが食事に満足された時には、「おいしかったよ」などメッセージをいただくこともあり、その際には職員の大きな励みとなっています。

心を支える食事を提供することで、入院中の塞ぎがちな患者さんの心を和らげる支援ができればと日々奮闘しています。

管理栄養士・調理師・事務員
力を合わせて
皆様の食事を支えます



入院生活において、欠かすことのできない一つに「食事」があげられます。食事によって得た栄養は、人が生きていく素となり、食事は生活をする基礎となります。入院治療を行う上で、食事はとても大切なものとなります。当院では、それぞれの患者さんの病態に合わせた様々な食事を準備し、提供しています。入院生活を支えるために、栄養を摂り、体を支え治療を推進する食事、そして食べる楽しみや喜び、満足感など心を支える食事の両方に取り組んでいます。今後、八鹿病院に入院して良かったと感じていただけるよう、栄養管理科スタッフが一同取り組んでまいります。

体を支える食事・心を支える食事

10/24

院内講演会
重症心不全とLVAD対応を学ぶ

重症心不全に対する植込み型補助人工心臓（LVAD）が開発されたことで、ご自宅で心臓移植を待つことができるようになり、当院でも患者さんが通院されるようになりました。

この機会にLVAD装着の患者さんに対する現場対応や重症心不全について、国立循環器病研究センター移植医療部医長の瀬口理先生にお越しいただき全職員を対象にご講演いただきました。



10/27

集団災害訓練を実施しました



救急車で搬送された傷病者を受け入れる様子



赤の重症者エリア。診察後必要時に検査や手術へ。緑の軽症者エリア。傷の手当て等をおこなう。

今年の訓練は、平日の日中、養父市で震度6弱の地震が発生し、多数傷病者が搬送・来院する想定で南但消防本部・美方広域消防本部の皆様と合同でおこないました。救急車による患者搬送から病院到着後のトリアージ（緊急性や重症度で優先度を決定）や各エリアでの治療や検査等の流れ、情報共有や来院者への対応を本番さながらの状況下で訓練しました。今後定期的な訓練の実施と、マニュアルの見直し等により、災害への対応力の向上に努めてまいります。

11/30

「ふるさとを想うコンサート in やぶ」

神戸学院大学（やぶ♥プロジェクト）主催の「ふるさとを想うコンサート in やぶ」が当院にて開催されました。アヤヲ&山田明義さんによる素敵なアコースティックライブ、最後には神戸学院大学の学生さん、養父市民の皆さん、当院職員と一緒にプロジェクトのテーマ曲を合唱し盛況のうちを終了することができました。



12/13

第51回院内クリスマスコンサート開催



八鹿高校音楽部の皆さん。歌声にうっとり！

今年は、毎年恒例の八鹿高校音楽部の皆さんによる合唱、院内の職員によるバンド「tu~tune（ちゅちゅん）」の演奏、そして最後は、会場の皆さん全員で「ふるさと」「きよしこの夜」を歌い上げ、クリスマスらしい楽しいひとときを送ることができました。



当院職員のバンド tu~tune

受賞

検査科 中島正之技師長
兵庫県自治賞（健康厚労） 授賞

検査科の中島正之技師長が、臨床検査技師として県民の健康増進に寄与したとして「兵庫県自治賞」を受賞しました。この賞は、明るく住みよい地域社会づくりに貢献し、その功績が優れている個人に贈られる賞です。中島技師長は、現在まで35年間当院に勤務し、平成24年からは兵庫県臨床検査技師会の理事として市民公開講座の企画運営などに取り組んできました。このたびは、長年にわたって地域住民の健康を守る活動に取り組んだ実績が評価され、めでたく受賞の運びとなりました。



受賞後の記念撮影。左から富管理者、兵庫県但馬県民局古川局長、中島技師長、後藤院長

医療の
スペシャリストが
伝授する

教えて！
健康コラム

ピロリ菌のおはなし

内科 布施 由佳



ピロリ菌

皆さんはピロリ菌
についてご存知で
すか？正式名称を
「ヘリコバクター・
ピロリ」(Helicobacter pylori)と
いい、胃の粘膜に生息してい
るらせん形をした細菌です。
胃には強い酸(胃酸)があるため、
昔から細菌はいないと考えられ
ていましたが、1970年代の
その発見以来、さまざまな研究
から、ピロリ菌が胃炎や胃潰瘍
などの胃の病気に深く関ってい
ることが明らかにされてきました。
井戸水などの摂取や感染して
いる親からの口移しなどが原因
で子供の頃(主に5歳くらいま
で)に感染し、一度感染すると
多くの場合、除菌しない限り胃
の中に棲みつづけます。感染が
長く続くと、最終的には炎症が
胃粘膜全体に広がり慢性胃炎と
なります。これが胃潰瘍、十二
指腸潰瘍、萎縮性胃炎を引き起

こし、その一部が胃癌に進展し
ていきます。

ピロリ菌の検査は血液検査な
どで簡単にわかりますので気
なる方は医師に相談してくださ
い。保険適用で除菌療法の対象
となる方は、ピロリ感染胃炎、胃・
十二指腸潰瘍、胃MALTリン
パ腫、特発性血小板減少性紫斑
病、早期胃癌に対する内視鏡的
治療後の患者さんです。

ピロリ菌の除菌療法は、1種
類の「胃酸の分泌を抑える薬」
と2種類の「抗菌薬」の合計3
剤を1日2回、7日間服用する
治療法です。正しく薬を服用す
れば1回目の除菌療法の成功率
は約90%です。除菌療法が成功
すると、ピロリ菌が関係してい
る様々な病気のリスクが下が
ります。ただし、除菌後もきちん
と医師と相談の上、定期的な検
査を続ける必要があります。

地域の中での看護活動を通し、患者さんやご家族を知る

地域包括ケア病棟(6病棟)看護師 中村 菜

昨年10月、JAたじま「や
ぶ地域ふれあい感謝祭」(J
A祭り)で、まちの保健室活
動に参加しました。看護師と
して勤務し始めて約7か月、
臨床の中で日々様々なこと
を経験し学ばせていただい
ています。今回は病院ではな
く、それぞれの生活の場
である地域での生活について、
来場される方々のお話を聴
くことや健康相談等をさせ
ていただきました。



まちの保健室ブースでは血圧測定や体組成測定や健康相談をおこないました。

いちばん近くで支える
私たち看護師からの声

かんばん 看護部 だより



「まちの保健室」活動では自分たちの
持つ専門職としての力を伝え地域に貢献
すると共に、地域の方との交流の中で看
護師としてより成長できる貴重な場所と
なっています。

から、患者さんや家族の方
の生活は地域が基盤である
と改めて気づきました。そ
の生活が継続出来るように
するためには、地域での生
活の実際を知り、どのよう
な部分に支援が必要になる
のか考える過程が必要であ
ると分かりました。

平成31年1月1日より平日の面会時間が変わります

この度、当院ではご来院される皆さんにゆっくりとご面会いただくため、平日の面会開始時刻を早めることといたしますので、お知らせします。

【従来の面会時間】（平日）午後3時～午後8時まで

【変更後の面会時間】（平日）午後1時～午後8時まで

※休日は従来通り午前10時～午後8時まで

管理栄養士による栄養相談ご利用ください



こんなお悩み
ありませんか？

- 病状（糖尿病・腎臓病など）に合う食事がわからない
- 食事が食べられない・痩せた
- 食事が噛みにくい、よくむせる など

栄養相談では、食事内容の確認、具体的な食事の提案、フードモデルで楽しくわかりやすい栄養指導など、患者さんの生活スタイルに合わせた食事のアドバイスをおこなっています。外来での相談と訪問での相談が可能です。栄養相談をご希望の方は、受診科の主治医または看護師にお声かけください。

フットケア外来はじめました!! <糖尿病の方・足のケアにお困りの方へ>

足や爪の変形、水虫、血管の閉塞による血流障害、神経障害の進行による感覚機能の低下は、重篤な足病変へ移行するリスクが高くなります。例えば、糖尿病の合併症で視力や握力が低下した方は、爪切りの際に足を傷つけてしまう可能性があります。少しの傷でもケアを放置し悪化することで下肢切断という大きな要因となってしまいます。予防的なフットケアをおこない、足病変への移行から足を守りましょう。

大切な「足」を守るために
早めにケアを！

ケア
内容

専門の研修を修了した看護師が、足のケアや自宅でのお手入れ方法、療養生活についてもアドバイスします！

爪切り

角質
ケア

爪甲
除去

巻き爪
陥入爪
矯正



【対象】

- 当院通院中の糖尿病性足病変がある方
- 足の傷が治りにくい方
- ひとりで爪切りが困難な方
- 足のケアにお困りの方

【診療日】

毎週月曜日（午前）※完全予約制

通院中の診療科から予約をお取りください。

【費用】

1割負担の方：170円 3割負担の方：510円

【予約申込み・お問い合わせ】（通院中の方）通院中の診療科へ（未受診の方）地域医療連携室

医師異動の お知らせ

【新任医師】平成31年1月16日付 よろしく申し上げます

【外科】^{もう じゅん}孟 順

【退任医師】平成31年1月15日付 お世話になりました

【外科】河本 達也

発行
編集



公立八鹿病院 総務課

〒667-8555 兵庫県養父市八鹿町八鹿 1878 番地 1
TEL 079-662-5555(代) <http://www.hosp.yoka.hyogo.jp>

いいね！お願いします

